

令和6年度自己評価表【中間値】

江田島市立能美中学校

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	現状値	各年度における目標値及び実績値				改善策																															
				令和4年度	目標	令和5年度 最終	令和6年度 中間	令和7年度																																
基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育成する。	①主体的な学びを促進する。	・プロジェクト型学習の考え方を生かし、課題発見・解決学習の各過程を位置づけた単元開発と実践を図る。 ・「毎日ノート」への指導助言を行うことで、自己教育力を育む。	生徒アンケートでの肯定的回答の割合	主体的な姿勢 92.6% 見通しをもった計画 82.4% 課題意識 74.1% (3項目平均 83%)	目標	85%	87%	90%	教務部 3項目の肯定的評価は、すべて令和5年度の最終値よりも下回り、目標値に至らなかった。これらのことから、主体的な学びの促進に向け、次の取組を全教科で実施する。 ①授業の振り返りの中で「何が出来なかったか、分からなかったか」「次時どう取り組むか」という視点を入れる。 ②授業前に前時の振り返りを確認する時間をとるようにさせる。 ③振り返り等の内容から、教師が個別の声かけを積極的に行い、生徒の学びがより良い展開になるようにする。																															
	②基礎・基本の定着を図る。	・各教科において、基礎・基本定着のための取組を工夫する。 ・単元ごとに到達度を把握し、その改善を図る。	江田島市小中学校学力調査の各教科で目標値を上回った教科数	1・2学年計10教科のうち、上回ったのは5教科	目標	5教科	8教科	10教科	教務部 3学年対象の全国学力学習状況調査の平均通過率は、広島県及び全国値とほぼ同程度である。 今後も、単元テストではやり直しを丁寧にさせたり再度同じ内容でテストをしたりして、基礎・基本の定着を図る。また、つまづいていることを自ら発信できない生徒もいるため、授業内で学習の状況等を生徒同士でコミュニケーションさせる場を設け、生徒同士の教え合い等につなげたり、学習の流れの視覚化したりする。また、教師が単元計画を作成する中で、生徒がつまづきそうな内容を予想し、学習形態や学習材料等、学習の手立てを考えておく。																															
豊かな心と社会性の育成を図る。	③「時を守り、場を清め、礼を正す」取組を推進する。	・生徒会自治活動を中心として、「aノーチャイム」「b黙動清掃」「c立腰・黙想」「d挨拶」の活性化を図る。	生徒アンケートでの肯定的回答の割合	a ノーチャイム 95.1% b 黙動清掃 89.3% c 立腰・黙想 95.9% d 挨拶 95.1% (4項目平均 93.9%)	目標	95%	98%	100%	生徒指導部 4項目の平均は目標値には届かなかったが、昨年度最終値を上回った。立腰・黙想が昨年度最終値よりかなり向上したのは、6月の学級委員会の「4秒礼を大切にす」という取り組みの成果だと思われる。このように、今後も自治活動が基本となる生徒委員会での活動を充実させる必要がある。 また、生徒自身の自己肯定感を向上させ充実した学校生活を送れるよう、教員から生徒へ、生徒から生徒へのほめ言葉を増やす取組をする。 ①仲間のよいところを見つけ、評価し、掲示する。 ②副担任や担任が、他クラスや他学年の帰りの会や集会に参加する。 ③自分ログのコメント欄を自由に見合う。																															
	④特別活動の充実を図る。	・学校行事等の目的を再確認し、生徒と共有し、精選と充実を図る。	生徒アンケートや保護者アンケートでの肯定的回答の割合	生徒 93.4% 保護者 95.4%	目標	生徒 98% 保護者 98%	生徒 100% 保護者 100%	生徒 100% 保護者 100%	生徒指導部 保護者アンケートの肯定的回答割合は昨年最終値よりでは1.5ポイント上回ったが、生徒アンケートでは3.3ポイント下がった。 まずは、教師自身が熱意や行事の意義を語れる想いをもち、価値づけができることが必要である。 さらに、係活動などを生徒が主体的に行える事前準備をし、生徒が活動する時には、褒めることができるようにしておく必要がある。また、行事だけでなく、事前準備や事後指導において、生徒を褒める言葉のレパトリーを増やし、生徒が肯定感を味わえるように準備していく。																															
					実績	主体的な姿勢 87.6% 見通しをもった計画 83.2% 課題意識 87.6% (3項目平均 86.1%)	主体的な姿勢 81.3% 見通しをもった計画 76.6% 課題意識 71.1% (3項目平均 76.3%)																																	
					実績	1・2学年計10教科のうち、上回ったのは6教科 <small>令和5年度全国学力学習状況調査(昨年3年)</small>	<small>令和6年度全国学力学習状況調査(現3年)</small>																																	
						<table border="1"> <tr><td></td><td>国</td><td>数</td><td>英</td></tr> <tr><td>本校</td><td>68</td><td>39</td><td>42</td></tr> <tr><td>全国</td><td>69.8</td><td>51.0</td><td>45.6</td></tr> <tr><td>差</td><td>-1.8</td><td>-12.0</td><td>-3.6</td></tr> </table>		国	数	英	本校	68	39	42	全国	69.8	51.0	45.6	差	-1.8	-12.0	-3.6	<table border="1"> <tr><td></td><td>国</td><td>数</td></tr> <tr><td>本校</td><td>59</td><td>52</td></tr> <tr><td>県</td><td>58</td><td>52</td></tr> <tr><td>全国</td><td>58.1</td><td>52.5</td></tr> <tr><td>全国との差</td><td>0.9</td><td>-0.5</td></tr> </table>		国	数	本校	59	52	県	58	52	全国	58.1	52.5	全国との差	0.9	-0.5		
	国	数	英																																					
本校	68	39	42																																					
全国	69.8	51.0	45.6																																					
差	-1.8	-12.0	-3.6																																					
	国	数																																						
本校	59	52																																						
県	58	52																																						
全国	58.1	52.5																																						
全国との差	0.9	-0.5																																						

健やかな体の育成と体力の向上を図る。	⑤ 体育的活動を充実させ、体力を向上させる。	・保健体育授業科の改善と共に業間運動や体育的行事の充実を図る。 ・部活動指導員を拡充し充実を図る。	「仲間と楽しく体を動かすのが好き」についての生徒の肯定的回答の割合	「運動やスポーツは好きだ」 生徒 73.8%	目標	80%	85%	90%	<b>生徒指導部</b> 「楽しく体を動かすのが好き」の評価が高いため、楽しく活動できる場、アイデアを生徒から出させたい。生涯に渡って、自己の体力や体の調子に気づき、セルフメディケーションできる資質を身に付けさせるために、授業改善や部活動の規律づくり、ボトムアップに取り組んでいきたい。
					実績	「仲間と楽しく体を動かすのが好き」 生徒 91.2%	生徒 91.4%		
組織の機能化と業務改善により、やりがいのある職場環境をつくる。	⑥ 時間外勤務の縮減に向けた業務改善を行う。	・定時退校日の完全実施（水曜日）を図る。 ・行事や会議のスリム化、また、時程の工夫等により、生徒と向き合う時間の確保を行う。	教職員に対する「やりがい」についてのアンケート肯定的回答	教職員 95%  のべ 22 人	目標	100% 17 人	100% 0 人	100% 0 人	<b>管理職</b> 教職員アンケートにおいて、「やりがい」の項目の肯定的回答の割合は 86%であり、概ねやりがいを感じていることが分かる。また、在校時間月 80 時間超の人数はのべ 3 人であった。 今後、教職員がやりたいことを出し合い、その実現をするために意見交換をしていく場を設定し、2 学期の実践に生かすことにより充実感につなげていく。また、業務軽減のために次の取組を行う。 ①欠席連絡等 LINE（AM6:30～AM8:15）での対応や留守番電話（AM7:30 まで、PM6:30 から）の導入より朝や放課後の業務軽減を図る。 ②複数顧問や部活動指導員の配置の趣旨を改めて周知し、役割分担することで、放課後の教材研究の時間を生み出す。 ③SSS の利用が少ない先生に対して、利用内容を具体的にアドバイスする。 ④授業の振り返りにおける ICT の活用をする。
					実績	教職員 90% のべ 0 人	教職員（18/21 人）86% のべ 3 人 （4 月 0 人、5 月 2 人 6 月 1 人、7 月 0 人）		